

2021 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

法人名

園 名

田名橋学園

和田幼稚園

まとめ

第2章第2節 乳児期の園児の保育	保育・教育を支えていくためには、乳児教育の大切さを知る必要がある。愛情豊かで受容的・応答的な関わりを通して、愛着関係を形成し、人に対する基本的信頼関係を培っていく。周囲の大人から愛され、受け入れられ、認められていることを実感し、自己肯定感を育てていく。乳児保育の環境を考えると、トイレの場所や数、保育室の広さ等十分ではない環境の中ではあるが、保育者が園児一人一人の存在を大切に、温かい家庭的な雰囲気のもとに、愛情をより注いでいきたい。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	「養護を土台として、生きる力を培っていく」を目標に保育をしてきた。園児の思いより保育者の思い「次の活動へ行ってもらいたい」が優先されている。自分の思いや欲求を主張し、受け止めてもらう経験を重ねることで、他者を受け入れることができ始める時期。安心感・基本的信頼感を育てているからこそ、「だいすきな」保育者を見本とし生活の流れを共有していく、「自分でしたい」自我が育っていくことができる。より一人一人の思いを表情や声から読み取り、応答的、共感的に関わりながら、子どもたちが「自分でしたい」という思いや願いを尊重しながら、一人一人の発達や生活の自立を温かく見守り援助していく。令和4年度はより発達の理解や一人一人の育ちを丁寧に見ていく。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	今年度はサークルタイムや保育環境の見直しを行ってきた。構成あそび、ままごとあそび、カードゲーム、指先の動きを促すレゴやラキュー、積み木やカプラなど。「子どもたち一人一人を大切に」環境づくりに力を注いできた。遊びながら、五感を通して学ぶ喜び、世界の仕組みを知っていく。そして、体験したことを活かしながら、遊びを広げ、思考を広げていっている。保育者も共に遊び、その環境に何が必要なか、環境を再構成しながら、保育を進めている。社会性、創造性や想像性を育み、来年度もより園児の心と体の成長が感じられるように環境（物的環境、人的環境）を整えていく。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	クラスだよりを子どもの姿をベースに作成し、保護者と子どもの育ちを共有している。コロナ禍のなかで、保護者に保育を見てもらえる機会が減り、保護者と「子どもをまんなか」において話す機会が減ってしまった。再度、「乳幼児教育の大切さ」を保護者とともに共有し、「子どもにとって」よりよい環境づくりをしていく。保育者が家庭と連携し、日々子ども一人一人を丁寧にみることで、そして園児の気持ちを十分に受け止め、安心感、安定感を得て、身近な環境に自ら働き掛け、好きな遊びに熱中し、やりたいことを繰り返し行い、子どもたちの主体性を大切にすることが、安全な安心した環境をつくることにつながることを感じている。
第3章 健康及び安全	園児の健康増進や食育の充実等の取組は子どもたちの生命の保持・情緒の安定につながっていく。特に乳幼児においては家庭と連携し、子どもたちの生命を守っていかなければならない。コロナ禍の中、保育者と保護者の連絡手段はICTを利用した連絡帳になっている。幼稚園での様子等を伝えながら、次年度はより活用して行けるようにしていく。近年ますます家庭支援の重要性を感じている。家庭支援を実施しながら、家庭の養育力とともに健康増進や食育の充実を図っていきたい。また、次年度も看護師・栄養士・調理師・保育者と連携しながら、子どもたちの健康や安全に取り組んでいく。
第4章 子育ての支援	コロナ禍において、家庭での見守りを余儀なくされ、「子どもたちどう過ごしていけばと悩む」保護者の姿も見られた。子育ての支援に関しては、保護者の気持ちを受け止めつつ、保護者が自己選択・自己決定できるように援助している。また、支援が必要なご家庭については、家庭環境等の状況を踏まえながら、必要な支援をしていく。コロナ禍の中で、各家庭として一人一人の状況が一律ではない中、まさに自立と生きる力、生き抜く力が大人にも求められている。その中で、園として「何ができるか」が問われている。
第5章 職員の資質向上	新型コロナの影響でオンラインで研修する機会が格段に増加した。NPO国際臨床保育研究所の勝山結夢氏に来院してもらい、実践の中で環境の見直し、保育者のマインドについて研修機会をもっている。専門家による助言をもとに、自分の保育を見直すことができている。次年度においては、研修機会を確保し、研修内容等の見直しを進めていく。遊びの広がりや子どもの心についての多彩な研修を準備し、保育者の地平を広げていける機会を作っていく。また、園内研修や日々の振り返りの質を高めることで、さらに園の保育が充実していくと思う。
総合	「0歳からの保育の大切さ」、「0歳からの育ちの連続性」E C E Cが世界基準になっている。乳児期におけるアタッチメントからの愛着の形成、基本的信頼感の獲得。人と人との関係性のなかで人は育っていく。1・2歳児から「みんな一緒」の感覚ではなく、「一人一人違う」「一人一人大切な存在」という意識を、保育者や保護者がもつことで子どもたちにもそのマインドは浸透していく。乳児保育の充実が今後の社会の未来を作っていく。「三つ子の魂百まで」乳児が感じた感覚がその子の人生を大きく変えていく。今年度、保育環境、組織づくり、保育の質について重点的に取り組んできた。「環境が変われば、子どもたちが変わる」「社会が変われば、子どもたちが変わる」。一人一人が認められる環境の中で、保育者や友達に支えてもらいながら、自立し、みんなの中の一人という意識が育っていく。小学校との接続や地域社会との関わりが今後の課題になる。子どもたちが地域の中で、生き生きと輝く社会を作っていく必要がある。令和4年度は小学校との交流会や田植え・九大の森森林セラピーとの交流等、地域に開かれた幼稚園を進めていく。また、園内研修や外部研修を活用し、保育について探求していく。園の様子を定期的に動画配信するなど保護者と子どもの育ちを共有しながら、園を開いていながら保育の質を向上させていく。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	14	3.21
「3歳未満児保育」	32	3.80
「3歳以上児保育」	53	3.34
「教育保育の配慮事項」	16	3.52
「健康・安全」	29	3.76
「子育ての支援」	18	3.22
「職員の資質向上」	9	3.67
計	171	3.51

データグラフ

